



～南米(ペルー・ボリビア・ブラジル)移民調査報告～

今回は、先に実施した、南米移民調査について報告します。

昨年度のブラジル・アルゼンチン海外移民調査に引き続き、今年度は、ペルー(18人)・ボリビア(5人)・ブラジル(10人)の3カ国で計33名から聞き取り調査を実施しました。平成21年9月11日から9月30日までの20日間、浦添市移民史編集委員の島袋伸三調査員と編集事務局の前津政廣(図書館奉仕係主査)の2人で聞き取り調査をしました。

問い合わせ
浦添市立図書館沖縄学研究室 ☎876-4946

海外移民調査の目的と方法

海外移民調査の目的は、移民の体験談と暮らしぶりを調査、記録するとともに移民当時の手紙やパスポート、写真、渡航証明書、渡航時の荷物など移民関係資料の収集を行うことにあります。

調査地は、ペルーのリマ市及び周辺地域、ボリビアのサンタクルス市及び沖縄コロニア、ブラジルのジュキア及びサントス、サンパウロ市サンタクララ地区、カンポグランデ市で実施しました。

調査方法は、一世及び二世に対し、海外移民調査カードを用い、個人面談による聞き取り調査と、浦添市南米移住者子

調査の成果

弟研修生との座談会を実施しました。

【ペルー】

ペルーでは、浦添出身で戦前移民の与座エイさん他17人の方々から聞き取りをしました。エイさんは、仲西出身で旧姓は外間、城間出身の夫・与座仁明さんの呼称で1953年に渡航しています。現在、93歳のご高齢ですが、かくしゃくとして、記憶もしっかりしています。戦前移民の苦労話や戦争中の収容所の話、子育ての話など貴重な体験をお聴きしました。

ペルー移民で最も特筆すべ



▲ペルーでの調査風景

ペルーでは、9人の子弟研修生との座談会を持ちました。一世の祖父父母については、厳しい面もあったが、やさしいイメージの方が強く、二世の両親については家事の手伝いよりも勉学に励むよう強く言われています。

【ボリビア】

ボリビアの戦後移民は、1954年8月15日、琉球政府の計画移民第一陣275人がボリビアのうるま耕地に入植したのが始まりです。浦添からは、眞栄城功一家他4家族16人が入植しています。以後、第二〇次まで11家族38人が入植しています。しかし、原因不明のうるま病や洪水災害、過酷な労働に耐えきれず帰国した者、隣国ペルーやブラジル、アルゼンチンなどへ転住した者など現在では、7家族17人の方のみです。

ボリビアで聞き取り調査をした山城徳子さんは、夫・興喜さん(故人、牧港出身・第一次移民)の呼称移民(第四次移民)として子供3人と一緒にボリビアへ渡っています。興喜さんは、一時は、八〇〇町歩と言われる農地を持ち、農場内にセスナ機の飛行場を持つなど有名な方でした。

【ブラジル】

ジュキアは、景色がやんばるに似ていることから、沖縄移民の間では「ブラジルのやんばる」と呼ばれていた所です。サンパウロ市から約350キロ、車で4時間かかりました。戦前から米作とバナナ栽培で有名な移住地の一つです。

ジュキアには、戦前移民の二世、内間安一郎さんから聞



▲ボリビアの山城さん一家

取調査を行いました。父・安林さん(父の呼称せ・伊相出身・組合第一二回・布哇丸・大正8年11月22日サントス着)は、ジュキアに約24ヘクタールの耕地を開拓し、バナナ栽培を行っていました。ジュキア沖縄県人会に自分の土地2.4ヘクタールを寄贈し、ジュキア沖縄県人会館の建立に貢献された方です。また、今から100年前の工工四教本を保存し、ブラジル沖縄文化センター内の移民資料館へ寄贈したことが地元サンパウロ新聞に掲載されていました。

ジュキアから次の調査地サントスへは、約120キロ、車で約2時間の距離です。サントスは、今から100年前日本人移民が初めてブラジルに渡った笠戸丸の入港地として知られている港です。

サントスには、西原出身の仲程通二氏から聞き取り調査を行いました。父は仲程通善(西原出身・第一二二回・布哇丸・昭和5年8月29日サントス着)、母は明子、男3人女6人の9人兄弟です。父・通善さんは、マリリアからカンピナスに移動し、そこで八百屋を開き、9人の子供を育てました。貧しいながらも子ども達には高等教育を受けさせ、それぞれ立派な職業に就

かせていました。サンパウロ市サンタクララ地区は、カーザベルデ地区と並んで特に浦添市出身者の多い地区です。勢理客出身の又吉義雄さんと伊智春子・比嘉千代子の兄妹、牧港出身の又吉清盛・正雄兄弟の聞き取り調査を行いました。南米拓殖移民会社や呼称移民、ボリビアからの転住など移民の動機は様々でした。現在は年金生活を満喫し、悠々自適な生活を楽しんでいます。中にはオバマ大統領の就任式にワシントンまで旅行を楽しんだ方もいました。

最後の調査地は、沖縄移民の原点とも言われるカンポグランデで行いました。内間清蔵さんは、戦前移民二世です。父は亀(城間出身・第五回・博多丸・大正7年9月2日サントス着)、母はウタ、男5人女7人の12人兄弟の二男です。父・亀さんは、当初アラサトーバに入植し、綿花収穫



▲カンポグランデの調査風景

の工夫として働き、後に小作をし、野菜づくりを始めました。1946年に家族一家でカンポグランデへ移動しました。父と長兄は1981年にサンパウロ市へ移動しましたが、清蔵さんはそのままカンポグランデに残りました。パール(売店)や日本へのデカセギなどを行い、現在は夫婦で年金暮らしをしています。栗国重信さんは、父・誠助(城間出身・第二一回・ブエノスアイレス号・昭和9年1月7日サントス着)、母マリス、男6人女1人の7人兄弟の四男です。父は1933年にモリアナ線イスベラーバのファゼンダ(農場)オタビツクに最初に入植し、その後アグートスで綿花栽培、1945年にバウルに移動し洗濯業を開業、1957年に一家でカンポグランデに移動、そこでも洗濯業を営みました。重信さんは、28歳のとき独立し、同じ洗濯業を始めました。その後、パールや菓子製造業を営みます。菓子製造業はかなり繁盛し生活は安定しました。現在は、家業を息子に譲り、年金生活を楽しんでいます。

ペルーでは、浦添市南米移住者子弟研修生受入事業の研修生がペルー浦添同志会の会

南米(ペルー・ボリビア・ブラジル)調査者名簿

氏名	出身地	年齢	氏名	出身地	年齢
稲福与座ジュリアシゲコ	城間	78	マルコ宮城みつお	屋富祖	56
上原仲宗根千恵子	牧港	68	山城徳子	牧港	77
安座簡平敷テレサ房子	当山	78	比嘉健男	港川	71
嘉手苺ローサトヨコ	当山	79	比嘉光子	牧港	70
宮城ファン辰良	屋富祖	80	又吉正行	牧港	75
新城菊子エウヘニア	屋富祖	81	比嘉秀充	港川	74
島袋重成エドアルド	城間	77	内間安一郎	伊祖	73
宮城アントニオ幸太郎	屋富祖	83	仲程通二	西原	64
与座エイ	仲西	93	又吉義雄	勢理客	77
内間島袋ハルコテレサ	城間	79	比嘉千代子	勢理客	74
島袋名幸キク	内間	69	伊智春子	勢理客	72
与座みよこ又吉ルス	城間	74	伊智栄徳	仲西	77
みつえルミシア与座	城間	80	又吉清栄	牧港	78
ファンロサのぶ子与座	城間	69	又吉正雄	牧港	67
宮城ファンユキ工	屋富祖	68	内間清蔵	城間	78
宮城定雄アルベルト	屋富祖	81	栗国重信	城間	80
比嘉ハツコエラディア新垣	小湾	81			

左記の日程で、今回の移民調査展示会を行います。

また、沖縄学講座で移民調査の報告会も予定していますので、ぜひお越しください。

【展示会】

期間 1/20(水)～27(水)
場所 市役所1階ロビー

【報告会】

沖縄学講座(第7回)
日時 1/23(土) 午後2時

場所 図書館2階視聴覚室
講師 島袋伸三氏(浦添市移民史編集委員)
受講料 無料